

2024年3月 岐阜市議会に意見書採択の請願を出して

岐阜支部 上野 美美



昨年の市議会議員選挙で新しい議員との入れ替わりもあって、令和6年3月議会に「治安維持法犠牲者名譽回復実現を求める」意見書採択の請願を出しました。結果は賛成11(共産党2、健やか緑政3、にじいろ1、市民クラブ5)、反対27(自民岐阜19、公明5、維新の会1、無所属2)で不採択となりました。

以前に何回もお願いに行つて顔なじみの議員さんもありましたが、新しく議員に

なられた人には、市役所でお会いして紹介議員になつていただくようお願いして6名の紹介議員で提出しました。市民クラブは「紹介議員にはならないが賛成はする」との前からの態度でした。公明党は「自民が賛成すれば賛成する」との主体性のない態度でした。前回は反対討論に公明党が立ち「当時は合法であった」と。今回は賛成討論に共産党が立ち、反対討論は自民党が「かねてから反対」と簡単なものでした。

なされた人には、市役所でお会いして紹介議員になつていただくようお願いして6名の紹介議員で提出しました。市民クラブは「紹介議員にはならないが賛成はする」との前からの態度でした。公明党は「自民が賛成すれば賛成する」との主体性のない態度でした。前回は反対討論に公明党が立ち「当時は合法であった」と。今回は賛成討論に共産党が立ち、反対討論は自民党が「かねてから反対」と簡単なものでした。

岐阜県版
第406号
2024年5月15日

治安維持法賠償同盟
岐阜県本部
〒500-8879
岐阜市徹明通7-13
岐阜県教育会館308号室
Tel 058-252-5366
振替00840-2-88638

私たちの運動の基本
ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 二、国は、戦前の治安維持法が、人道に反する惡法である事を認めるここと
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に、謝罪と賠償をおこなう事

ク対談『生活図画事件』の菱谷良一さんと憲法学者小林節さんが対談』が載っています。

ます。

「生活図画事件」とは生活をありのままに描く美術教育で26名～28名が逮捕されました。今101歳になられた菱谷さんはその一人で一年三ヶ月、零下30度の独房に捕らわれました。菱谷さんは北海道から東京へ国会請願に10回参加してきましたが「金錢的、物質的でなくとも一言公式に謝罪してくれれば良いが見込みがありますか」と聞かれます。



小林節氏は「理論上は可能です。絵画は個性の発露ですが自由に絵を描いたら逮捕されるのは明治憲法下では合法でした。大日本帝国は戦争に負け、東京裁判で『人道に反する罪』をでっち上げました。治安維持法で逮捕するのは、当時は合法でしたが人道に反する罪であり、この罪は償つてもらわなければなりません。

「治安維持法と現代」誌2023秋季号に任は日本国にあります。権力を持つていらないの

日本国という法人格がやらせたのだから責任は日本国にあります。権力を持つていらないの

で無視され続けています。小選挙区制度のトリックで20数パーセントの意向で7割の議席を持つてゐる力関係で無視され続けています。国会で『治安維持法犠牲者賠償法』を作り、それに見合う予算を付ける。そのためには立憲民主党、共産党、社民党などで政権を持つことが必要です。戦争の責任を誰がとるのか、負の遺産を誰がとるのかは主権者である国民です。過去の責任にけじめをつける必要を語り続けなければなりません。』と答いました。



県女性部で実践のリレー

一映画「ぼくたちは見た」DVD鑑賞一

岐阜支部 大塚和子

私は、昨年伊藤千代子の映画会上映岐阜市東部実行委員会の方に声をかけたら、ぜひ「ちらでも上映を」と言う事で、民医連・新婦人・民医連労組に声をかけました。大垣の染谷さんにDVDをお借りして、2会場で3回90人の参加で上映会を行ないました。「子供達の声を聞く事が出来てよかったです」と感想が寄せられました。

いま、当時の10倍以上の犠牲者があり支援物資も届かない現状、ようやく国連決議が採択されましたが、当時のあの子達はもう大人になっていますが、今はどうしているのだろうかと想像し、参加者の皆さんとの平和を願う気持ちが増したのでは、と思いました。

なお、この映画会の利益4万4千円を、この映画監督が立ち上げた「即時停戦の会」に送らせてもらいました。

多治見の人々が国道の道路いっぱいになつて通りながら「勝った勝った、又勝った」と口々に叫びながら虎渓山めざして歩いて行きました。

戦前の日本 (7)

恵那支部 田口 進

(一) チョウチンデモ

一九三七年（昭和二年）中国、国民政府の首都南京が日本軍によって攻め落とされました。「南京陥落」です。



夕闇が迫るとチョウチンに灯をともした虎渓山が真っ赤に染まりチョウチンが大きく揺れていました。遠くからもその灯はよく見えたそうです。僕の家から虎渓山迄はずつと田んぼでそこを一本の道が続き、その道が突き当たった所に大きな池があり「弁天池」と言つて弁天町の地名の基になつたと言われています。僕が家の裏に立つて赤く染まつた虎渓山を見ていると、母がそばに寄つて来て「見えるか、あんたは生まれた時から目が悪くて、この子は目くらになるかと心配したけど良かつた」と言つた。

国を上げてのお祭り騒ぎを心配そうに見ていた母は「あんたが生まれた直ぐ後に『天皇（注、現在の上皇）』が生まれた時は『んなもんじやなかつた。その時は『めでためでたや天の御子さまが！』と言つて人々が街の中を町内ごとに練歩いた」と話した。

戦争を部落共同体が応援し、支え、励まし始めた。日本のその後にとつて昭和一五年から一六年という年は重要な年でした。

ファシズム体制が確立し、大正デモクラシーが姿を消した。

国をあげての「皇紀二六〇〇年」の記念行事がすすめられ、神武天皇即位の年を皇紀元年とした国定教科書も全面改訂され、神

日本が前面に打ち出されるようになりまし
た。しかし、僕の廻りの風景は少しも変わらな
かつた。虎渓山永保寺の雲水が托鉢に廻る時
にはこの田圃の近道を必ず通つた。母は米を
用意し一人ひとりの雲水に渡した。



(一)南京大虐殺

日本軍は一九三七年（昭和一二年）南京攻略に際して三十万人の住民、捕虜を不法に殺害した。

加登川孝太郎は、戦前・戦中においては陸軍参謀であり、戦後はテレビ放送に関わり時には歴史、戦争ドキュメンタリー制作に力を振るつた。日本の軍事史に関わる数多くの刊行書も書き歴史家であった。

自身が体験した戦場は、中国・ヨーロッパ・アレイ・インドシナで歴戦をくぐり抜けた。敗戦

時、少佐で第一三軍参謀であった。昭和五八年から六〇年にかけて旧陸軍将校の親睦団体である「偕行社」は南京戦史の調査・作成を行なつた。その目的は中国の激しい反発、日本国内の左派や共産党の主張していた「大虐殺」論に反発するためであつた。ところが中国へ行つて証言や関係文書を集めていく中で、日本軍の蛮行を示す証拠が次々と明らかになつた。

加登川は連載されていた「南京戦史」で「不法行為のあつた事は弁明の言葉がない。中国人民に詫びるほかない」という文書を発表した。これによつて「南京大虐殺」等はなかつた等と嘯ぶく自民党の国会答弁等も姿を消した。

(二)スペイ容疑

九一歳の母が「今迄誰にも言わなかつたけど」と語つた事によるとニューギニアに召集された少し前、繁晴（僕の父）がスペイ容疑で特高に捕まつたことがあつた」と言つた。（注、召集とは天皇が集める）ことを意味し、現在は国会召集だけに使われている言葉。

僕はびっくりして「どういう理由でそんな事になつたか」と母に強く問うたが「特高の事はまったく分からないが父ちゃんから聞いた」とは良く覚えている」と言つて話し出した。

父の話によると「朝工場に出勤すると、大蔵

省の責任者が各工場の工場長を本部事務所に集め『実は』の事はきわめて重大な内密の話だが、本日天皇が熱田神宮にお参りなさる、そのため道中が厳しい警戒体制に入る事を告げられ、陛下の名前は絶対に出さないように、みんなには警戒体制に素直に従うよう各工場に話を徹底してほしい。大声を出したり、笑つたり、友達と喋る事のないよう徹底してほしい』と言られた。(熱田神宮には皇統の神器が飾つてあり、昭和天皇は時々お参りなされた)父は言われたとおり、働いている人達が帰る間際に集まつてもらい、言われたとおり告げたが、自身はニューギニア島出発のため、実務整理を一時間ぐらい遅れて事務所を出た。熱田神宮に至る道路の厳しい警戒網はすでに解かれ、通る人影もまばらであった。思わず口中で「もうお通りなされたのか」とつぶやいた。するとすぐ前に立っていた男が一人突然振り向き、一人の男に両腕をがつちりつかまれ熱田警察署につれていかれた。始めは何事かと思つたが特高達は「この男極秘中の極秘、陛下が御通りになる事を知つてゐる男だ。スペイダ」と決めてかかり取り調べは厳重を極めた。父は、陛下の事は何を言われても「知らない」と笑い合つた事を想い出し、特高に「私は軍国主義者です」と言って紙と筆を借りて、召集の事、現地で製材機の解体、組み立て、

も父の腕が必要な事を話してくれたが特高は納得せず追求を続けたがスペイ呼ばわりは少なくなり、「この非常時に花や茶をやつてはけしからん」と生活を問題にしてきた。

父は茶や花を習つていた虎渓山の永保寺に迷惑をかけないよう自分一人の趣味でやつてゐる事を強調した。すると今度は「この非常時に茶や花をやる等お前は平和主義者か」とするべく追求してきた。

その時、ふと以前永保寺の和尚に、家族の事を聞かれた時、男の子が生まれたら父親が名を付け、女の子は母親が名を付ける事を決めていたので長男は忠、次男は孝、三男は進、四男は明、五男は勝だと言つた。すると和尚が「お前は軍国主義者だな」と言つて短冊に筆で「忠・孝・進・明・勝」と書いて始めから意識してつけたのかと聞いた。「いえ、偶然です。和尚さんに短冊に書かれて始めて気がついたもので」「忠・孝・進・明・勝」と書いて始めから意識してつけたのかと聞いた。「いえ、偶然です。和尚さんは軍国主義者です」と言って紙と筆を借りて、召集の事、現地で製材機の解体、組み立て、



た」と言つた。

特高はしばらく眺めていたが急に奥に引き込み、しばらくたつて三人が出て来て「釈放だ帰つていい」と言つた。父が家に帰ると心配していた母が「工場の幹部の人人が来て心配しないようにと心配りをしててくれた」と言つたのでありがたがつた。

父は、日本の進めてゐる戦争に大きな疑問を持つた。特に前年、父が働いてゐる工場に近い三菱重工(軍需工場の火薬庫)が爆撃され、あたり一面火の海になつた事を直ぐ近くで目撃して、そのままだと米軍の空爆で名古屋は焼け野原になると心配した。

(四) 失敗した防空壕

三菱重工が空爆されると「国防婦人会」が町内ごとに組織され空襲に備え火を消す訓練・ベケツリレーの練習が行なわれました。又、「在郷軍人の会」が廻つてきて各家庭の床下に防空壕を掘れと期限を決めて指示をした。そのため一家総動員で畳を上げて床板を取りはずし、ベケツに入れた土をすぐ側の池に運ぶのは僕等小学生の仕事だった。一週間位かけてようやく堀あがつた。在郷軍人に届け出ると、見に来る事になつた。しばらくたつてから三人が見に來た。畳を上げ床下を見た。全員「アツ」と声をあげた。防空壕が満水になつたのだ。